

# いきいき通信 VOL. 9

湖南省男女共同参画リポーター・湖南省人権擁護課

## \* ひと ひと 女と男グッドパートナーいきいき講座(1回目) \*

### 「認知症の母に寄り添って」

講師 小宮 俊昭さん (公益社団法人 認知症の人と家族の会 滋賀県支部 世話人副代表)

日時 平成 25 年 9 月 28 日 (土) 午前 9 時 30 分～ 場所 サンライフ甲西



▲ 講師の小宮俊昭さん

### 湖南省商工会 立入寛己

認知症という言葉はよく聞いていましたし、将来には自分や親もなるのではないかと、漠然と思っていました。が、小宮先生の講座を聞いて、今から気持ちや心の準備をしておくことが必要だと感じました。

その中で特に、認知症の方には「怒らない」、「笑顔で待つ」のが大事ということが強く印象に残りました。しかし、今でも親とケンカをしたり、些細なことで怒っ

りしていることが多く、そういうところから改めないといけないなと学ばせていただきました。

また、介護は妻や女性の仕事、男は外で働くのが当たり前のように思っていました。が、女性の力ではできないこともたくさんあり、男女が協力し合わなければならないことがわかりました。今回の講座で男性として介護にどう関わればよいか興味を持つことができ、もっと介護を勉強して、多くの男性に伝えていければいいなと感じました。

### 男女共同参画リポーターの取組に参加して 湖南省商工会 橋口裕美

年間を通していきいき講座に参加させていただき、男性の役割と女性の役割の差がどんどん縮まっているなと感じました。

講師の先生の介護体験についてお聞きし、近年増加する男性介護者には課題や不安も多いと感じました。女性だけの力では無理なことがあったり、実際男性のみが介護しなければいけない状況であったり様々ですが、どちらもサポートなしでは成り立たないのが現実だと思います。とりま地域や公共団体等のサポートの充実が必要不可欠です。

2 回目の講座では育児される男性の体験についてのお話でしたが、日頃から育児の話は女性どうしや女性の育児経験者の方のお話が多かったため、違う目線で勉強させていただきました。

子どもから大人まで、ぜひ一度聞いていただきたいお話でした。

リポーターとして参加させていただき、家庭生活や社会の中で「男女共同参画」について意識しながら過ごせた一年間でした。



## ＊ ひとひと 女と男グッドパートナーいきいき講座(2回目) ＊

### 「<sup>パパ</sup>父親であることを楽しもう～仕事も家庭も楽しむ方法」

講師 八木 雅彦さん (ファザーリング・ジャパン滋賀 代表理事)

日時 平成 25 年 12 月 14 日 (土) 午前 9 時 30 分～ 場所 石部文化総合センター 会議室



▲ 講師の八木雅彦さん

#### 湖南省工業会 石部政貴

子どもが生まれた時、男性が育児休業を取得する制度があっても会社に申し出をしにくいのが、日本の現状ではないでしょうか。

今回、講座の先生は、自らが5ヵ月間の育児休業を取得されました。その経験から話をいただきました。「日本は他の国と比べて、父親の家事、育児に参加する時間が少ない。子どもが大きくなってから、育児をしてこなかったことを後悔している父親が多い」と述べられていました。

両親と一緒に育児することが、家庭の幸せに繋がります。母親の負担も減り、父親も子どもの笑顔が見られます。家庭がうまくいけば仕事もうまくいきます。一人ひとりの行動で社会が変わっていく。そんな話を聞かせていただきました。

講座の後の絵本読み聞かせでは、子どもたちの楽しそうな笑顔が見られて、とても幸せな気分になりました。

2012年度の男性の育休取得率は1.89%。取得期間も2週間未満が多いそうです。2020年度の目標は13%です。現状のままでは厳しい数字としかいいようがありません。社会全体で当たり前のこととして、取り組んでいければと思います。

#### 日本のパパ 湖南省工業会 野口周作

私は、今期から湖南省工業会の一員として男女共同参画リポーターとして参加させていただきました。恥ずかしながら参加させていただきその日まで、団体の存在、活動内容すら知りませんでした。「女と男グッドパートナーいきいき講座」等の運営に携わらせていただくことで、学ぶことが多く、ありがたく思っています。

そんな中、日本人の父親が育児・家事・介護に費やす時間が世界的に見ても極端に少ないことがわかりました。実際、私もその典型的な日本のパパです…と妻も言っています(笑)。我々の先輩方は、家庭を顧みず長時間労働することで日本の経済を発展させてくれました。私もそうするべきと思っていました。ただ、そんな日本の労働生産性(生産量÷労働量)は意外と低いそうです。

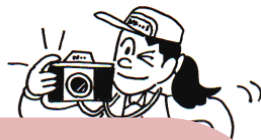
近年、弊社も社会保険労務士さんの協力を得て就業規則を更新しましたが、働く女性を守る規則、また、育児・介護をする方をサポートする規則が多く更新されていたことに気づきました。

ワーク・ライフ・バランスといった言葉を最近よく耳にします。講座で教えてもらったのは、家庭の中における自分を楽しむということ。能率よく仕事をこなし、家庭では趣味や、夫やパパであることを楽しむ…そうありがたいものです。



▲ 後半の「絵本読み聞かせ」では子どもたちも大喜び

人権擁護課では男女共同参画に関するビデオ・DVDの貸し出しを行っています。  
地域や団体での研修にお使いください!



女性史カフェ番外編「農村女性の学び」に参加して  
廣井美子

戦後、農業改良助長法に基づいて生活改良普及員の制度がスタートしました。生活改良普及員たちに支えられて、農家の女性たちは何を、どのように学んできたのか。滋賀の元生活改良普及員の稲垣澄子さんの体験から、身近な地域の農村女性が取り組まれた学習について考えてみよう、と、「女性史くらぶ」の会員さんと自由に学び・語り合いました。講師は「農業を支えた女たち」という著書を発行されている女性史研究家の早田リツ子さんです。

稲垣さんたちは、農村女性が現実の生活から抜け出て、どう生活改善をすればいいのかわかりやすく伝えるため、「サシスセソ夫人からカキクケコ夫人へ変わらしましょう」と呼びかけたそうです。固定的性別役割分担によって、女性の役目とされてきたサ（裁縫）シ（仕事）ス（炊事）セ（洗濯）ソ（掃除）夫人から、カ（管理・家計）キ（記録）ク（工夫）ケ（決意・決断・計画）コ（行動）夫人に変化し、力をつけて自立した女性になっていくことを普及して回られました。

農村女性は家をくるむ地域の中で、自分があるという考え方を広げ、豊かに明るい未来をめざして歩き始めた姿を知ることができた、良き学びの場でした。



今年5月に長女が誕生し、はじめての育児に奮闘しています。妻が車を運転できないので、大きな買い物は私の担当。一人で買い物のときは、ベビーカーとショッピングカートの両方は押せない、抱っこ紐で娘をつれて、買い物をしています。娘も外出に興味津々でこ機嫌です。

▲会場内では滋賀のイクメン・カジダンフォトコンテスト2013  
パネル展もありました。上は最優秀作品。

県内各市町の男女共同参画に関する課題について話し合いました

女性の学びの歴史から男女共同参画を学ぶ

西村真喜子

今年のフェスタのテーマは「さらに一歩前へ～それはいつ？今でしょ～」である。テーマにも若い実行委員会の人たちの感性を感じさせる。このフェスタも今回まで多くの人たちの手によって続いてきた歴史がある。講座・研修の数が減り、ワークショップ・体験・発表の数が増えているのも今頃の姿であり、全体の数が減っていること、参加者の高齢化も時代の流れなのであろうか。若い二十代、三十代、四十代、五十代の現在の社会の主要な人たちの参加が最も期待される。

講座の「『農村女性の学び』に学ぶ」では、カフェ形式でコーヒーとケーキでリラックスし、言葉集めで参加者に一体感を持たせる演出が心地よかった。戦後の農村女性たちが国の政策の生活改良普及員さんとともに学んだことから、今の私たちが学ぶのである。家庭の中から男女同権を自身から得るための、従属的な女性から自立する女性への学びの歴史でもある。

最後に「憲法と私たち 96条はなぜ大切か」の研修に参加した。96条は憲法改正に関わる条文であり、自分たちが現行の憲法を、どのように考えているか問われているようでもあった。そして現行憲法で「両性の平等」と「個人の尊厳の尊重」が宣言されていることによって、男女共同参画が必然的に大切なことを改めて考えさせられたのである。

今後、女性からの視点だけでなく、男女ともに参加しやすい講演・講座が増えること、共に語れる時と場に前進してほしいとも思った。



▲実行委員会運営企画「県内各地の男女共同参画は今？」

＊「さらに一步前へ～それはいつ? 今でしょ.～」＊

これは、11月に開催しました「G-NETしがフェスタ2013」のテーマです。

このテーマを決めるにあたっては、「どこから一步前へ進むのか?」「どこに向かって進んでいくのか?」「どのタイミングで一步を踏み出すのか?」など、フェスタ開催の企画・運営等に携わっていただいた実行委員の皆さんの間で、白熱した議論が交わされました。個人・団体を問わず、一步前に踏み出すためには、今の自分あるいは自分たちの状況をしっかりと把握しておくことが重要です。そして、進んでいく方向・目標がしっかりと定まっていなければなりません。さらには、次の行動に移すためのきっかけが必要になってくるでしょう。フェスタにご参加いただいた皆様には、男女共同参画社会の実現に向けて活動している様々な団体等との交流や活動発表を通じて、さらに一步前へ踏み出すためのきっかけを見つけていただけたのではないのでしょうか。



滋賀県立男女共同参画センター  
森井 一夫 所長

また、フェスタでは、湖南市の男女共同参画リポーターや担当職員の皆さんにもご参加いただき、県内の各市町や団体の皆さんと情報交換・意見交換をしていただきました。「男女共同参画の視点」を地域や家庭にいかに関与させていくか、今後の実践につながるヒントを見つけていただけたのではないかと考えております。

当センターは、これからも、地域の男女共同参画のまちづくりを支援してまいります。

「さらに一步前へ」を意識した湖南市の皆さんの取り組みを大いに期待しています。

＊あなたも男女共同参画リポーターになってみませんか?＊



▲ 男女共同参画リポーター会議の様子



▲ 「いきいき講座」終了後、講師との座談会を終えて...

男女共同参画リポーターは、地域に根ざした男女共同参画のまちづくりを進めるために設置されています。任期は1年。市内に在住か在勤されている20歳以上の人で、男女共同参画社会について興味を持ち意欲的に活動できる人なら、どなたでも歓迎です。

今年度は、湖南市商工会様、湖南市工業会様にもご協力いただき、2名ずつリポーターになっていただいています。

毎年、4月から5月頃に募集していますので、何か男女共同参画ってよくわからないけれど興味があるという人、大歓迎です。これからのライフスタイルについて一緒に考え、発信していきましょう。

募集については、広報「こなん」や市のホームページなどでお知らせします。ご応募お待ちしております!

女と男グッドパートナー  
いきいき通信 Vol.9

■発行 平成26年3月

■編集 湖南市男女共同参画リポーター  
(西村真喜子、廣井美子、望月真、森島裕子  
湖南市工業会・石部政實、野口周作  
湖南市商工会・立入寛己、橋口裕美)  
湖南市 人権擁護課

■連絡先  
TEL 5500-60000  
湖南市中央二丁目一番地

湖南市 人権擁護課

FAXTEL (71) 2354

(72) 22001

Eメール jinken@city.shiga.konan.lg.jp

平成25年度 年間活動内容

7月17日 第1回会議：リポーター会議・いきいき講座の概要

8月20日 第2回会議：期日、会場 講師の決定、アンケートの内容検討

9月28日 いきいき講座 (1回目)

10月10日 第3回会議：参加体制、当日の時間配分・役割分担

11月17日 G-NETしがフェスタ 2013へ参加

12月14日 いきいき講座 (2回目)

1月23日 いきいき通信第一回編集会議

2月20日 いきいき通信第二回編集会議

※いきいき通信 3月分配布

